

後期基本計画体系図

序論
基本計画
政策1
政策2
政策3
政策4
政策5
政策6
資料編

基本構想部分	基本理念	ともに手を携えて誇りを持てる															
	都市像 将来	誰もがしあわせを実感できる															
	政策	1 暮らしを支える 快適なまちづくり [都市基盤の整備]				2 住みやすい環境と 安全なまちづくり [暮らしやすい環境の整備]							3 にぎわい豊かな 暮らしを創出する まちづくり [産業経済の振興]				
後期基本計画部分	施策	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	
		道路網の整備・充実	公共交通網の整備・充実	防災・消防対策の充実	都市の整備	生活環境の充実	廃棄物の減量・処理の適正化	自然環境の保全	上水道の充実	汚水処理の推進	防犯対策の充実	交通安全対策の推進	農林水産業の振興	商工業の振興	観光の振興	シテイセールスの充実	
	基本事業	＜各施策別ペ															
重点項目	＜市民協働＞ ＜シティ																
ページ	28	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	52	54	56		

まちづくり

独立都市 さんむ

4					5					6			
だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり [保健・福祉・医療の充実]					生涯を通じて人と人とのふれあい共に学びあえるまちづくり [教育・文化の振興]					市民と行政が協働してつくるまちづくり [コミュニティ推進と行財政の効率化]			
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
高齢者福祉の充実	障がい者（児）福祉の充実	健康づくりの推進	子育ての支援	地域福祉の充実	学校教育の充実	生涯学習の推進	スポーツの振興	学校家庭地域の連携	人権尊重のまちづくり	協働と交流によるまちづくり	開かれた市政	計画的・効率的な行財政運営	公正確実な事務の執行
ージに記載＞													
セールス＞ ＜復旧・復興＞													
58	60	62	64	66	68	70	72	74	76	78	80	82	84

基本計画の見方

序
論

基本計画

政策1

政策2

政策3

政策4

政策5

政策6

資料編

将来都市像を実現していくための、「政策」の名称です。

政策実現の手段となる「施策」の名称です。

施策を実施することで目指す、将来の姿です。

「施策」の目指す姿の達成度（成果）を示す指標（モノサシ）です。

後期計画策定時（平成23年度）における現状値です。
なお、市民アンケートによる指標値は、平成24年5月に取得しています。

後期基本計画の終了年度（平成29年）までに達成を目指す値です。

指標の設定方法についての説明です。

1-1 道路網の整備・充実

■ 施策の目指す姿

道路が整備されることで、安全な日常生活が実現し、利便性が向上します。

■ 施策の成果指標

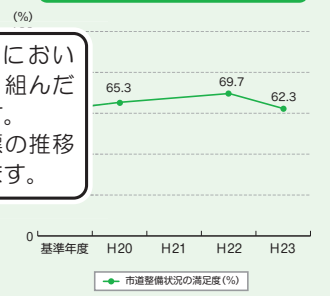
指標名	指標区分	現状値	後期めざす値	説明
市道整備状況の満足度	成果	62.3%	→ (66.0%)	市民の市道整備状況に対する満足度を見る指標です。市民アンケートで、幹線道路及び生活道路の整備状況について「満足」「どちらかといえば満足」「ふつう」と回答した市民の割合です。

■ 前期基本計画の取組結果

「市道整備状況の満足度」は、基準年度の62.1%に対して、平成20年度から平成22年度にかけては、70%近くまで向上しましたが、平成23年度には指標が低下している状況です。前期目標を維持することについては、前期基本計画られます。
また、前期計画期間での整備の進捗並びに道路パトロールの維持補修を強化してきましたが、限られた予算で市民全員の要望に応えることは難しく、安全性の確保を最優先としており、利便性向上に関する改修のすべてに対応できない点もありました。

前期基本計画の期間において、本施策として取り組んだ結果をまとめています。
なお、施策の成果指標の推移をグラフで示しています。

前期計画期間の施策の成果指標推移



■ 後期基本計画の課題と方向性

- 合併した旧4町村の道路の整備状況に差があるため、道路のメンテナンスの取れた整備を行います。
- 経年による道路の老朽化が顕著なため、維持管理を行っていきます。
- 高齢化社会により歩行者の増加が見込まれるため、計画的効率的な整備が必要であると考えます。

取組結果等を踏まえ、後期基本計画で取り組む課題や、方向性を示しています。

成果指標は取得方法の違いによって、次の3つに区分しています。

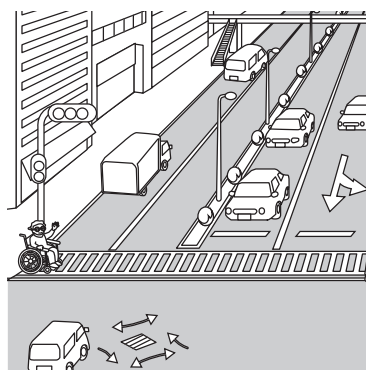
成果	目指す姿の実現度合いを示す指標です。
社会	施策や基本事業の状況を示すものですが、国や景気動向等の社会動向に左右され、市単独では成果向上が困難な指標です。
代替	成果を直接示すことが難しい場合に代替として設定し、行政の活動量等を示す指標です。

施策実現の手段となる「基本事業」の名称です。

基本事業を実施することで目指す、将来の姿です。

□ 基本事業の構成

基本事業名	目指す姿	指標名	指標区分	現状値	後期 めざそう値
1 幹線道路の整備と維持管理	広域幹線道路に接続する幹線道路が整備・維持管理され、安全性・利便性が確保されます。	幹線道路の整備状況に対する満足度	成果	65.5%	→ (71.0%)
		幹線道路の改良延長割合	成果	95.4%	96.0%
2 生活道路の整備と維持管理	生活道路が整備・維持管理され、安全性・利便性が確保されます。	生活道路の整備状況に対する満足度	成果	59.0%	→ (61.0%)



基本事業の「目指す姿」の実現具合を測る指標（モノサシ）、指標の区分、現状値、後期基本計画の終了年度（平成29年）までの目標値です。

※この部分には、この施策に関する計画がある場合、「部門別計画」として掲載しています。

用語解説

広域幹線道路：国道・県道・広域農道です。

幹線道路：主要な市道（1・2級）です。

生活道路：広域幹線道路・幹線道路以外の市道です。

めざそう値は、次の3つのパターンで表しています。

「数値」	業務データから現状値を把握するものについては、具体的な数値で表します。
「矢印(数値)」	アンケートで現状値を把握するものについては、統計誤差があることから、矢印で方向性を示し、括弧書きで目安の数値を示しています。
「－」	社会・経済情勢等の影響が大きい社会指標や、達成水準を示すことが難しい代替指標については、目標値を記載していません。